

熊本市避難所運営支援への派遣職員活動報告

平成28年熊本地震における 避難所の状況

千葉市総務局防災対策課



平成28年熊本地震

「最大震度7の地震が2回発生」

前震:4月14日(木)21時26分頃 熊本県益城町

本震:4月16日(土) 1時25分頃 熊本県益城町、西原村

「最大震度5弱から6強の余震」

熊本県熊本地方、大分県中部地方において多数発生

避難者数及び避難所開設数
(4月17日9:30時点最大値)

避難者数:183,882名

うち熊本市110,750人(4月17日)

避難所数:855か所

うち熊本市267か所(4月21日)



損傷した熊本城天守閣 1

千葉市の対応

「物資支援」(4月18日～20日)

ペットボトル:50,000本 ブルーシート:200枚
タオル:3,000枚 携帯トイレ:10,000回分
アルファ米:10,000食

「職員派遣」(4月20日～8月31日)

避難所運営支援・下水道復旧など
延べ:173名

「その他」

義援金受付 市税期限の延長
市営住宅の供与 災害見舞金



避難所運営支援への千葉市職員派遣

1 派遣人員

50名(1班:27名 2班:16名 3班:7名)

2 派遣期間

第1班出発 平成28年4月26日(火)

支援活動 平成28年4月27日(水)～5月18日(水)

第1班 4月27日(水)～5月 4日(水)

第2班 5月 4日(水)～5月11日(水)

第3班 5月11日(水)～5月18日(水)

第3班帰着 平成28年5月19日(木)

避難所運営支援への千葉市職員派遣

3 派遣先

熊本市南区内の避難所

4 活動内容

- ・避難所受付
- ・支援物資の管理(搬入、在庫管理、配給等)
- ・食事の準備、配給
- ・衛生管理(清掃、ごみ、食事等)
- ・避難者への支援(見回り、声掛け、要配慮者対応、ペット対応等)
- ・集約前の避難所の閉鎖
- ・集約避難所の開設 など

活動の様子

○事前打ち合わせ(南区役所)



熊本市職員と南区への応援職員(千葉市、神戸市、相模原市)の打ち合わせの様子です。

活動の様子

○避難所受付



避難所の受付では、入退所者の管理、掲示板等を使った情報提供、物資の支給などを行いました。

活動の様子

○支援物資の管理



第1班到着時には、多くの支援物資が届いており、支援物資が廊下や保健室まであふれていたため、移動・整理が必要でした。

発災初期は、避難所になかなか物資が届かなかったそうです。



活動の様子

○食事の準備・配給



一部の避難所では炊き出しも行われていましたが、食中毒への懸念などから多くの避難所では、おにぎりや調理パンなどの支給が多くなっていきました。



活動の様子

○衛生管理(清掃、ゴミ、食事等)



ゴミは大量に発生しましたが、収集の回数が限られていました。

活動の様子

○避難者への支援



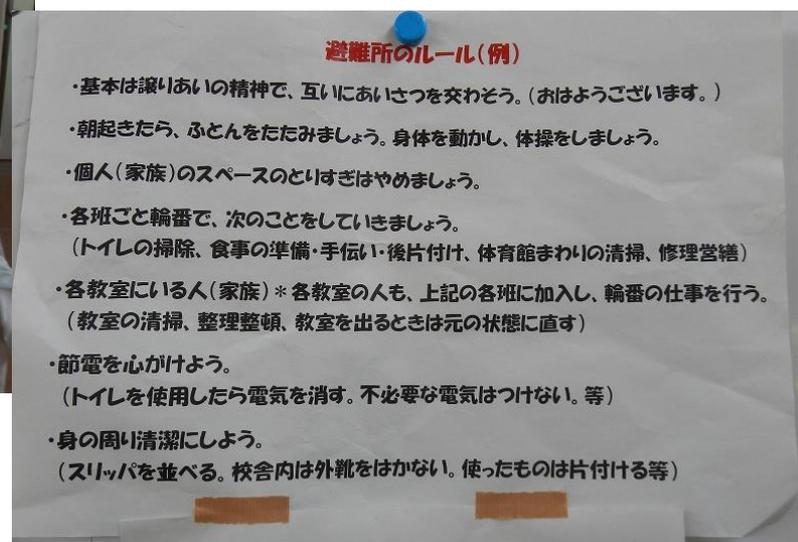
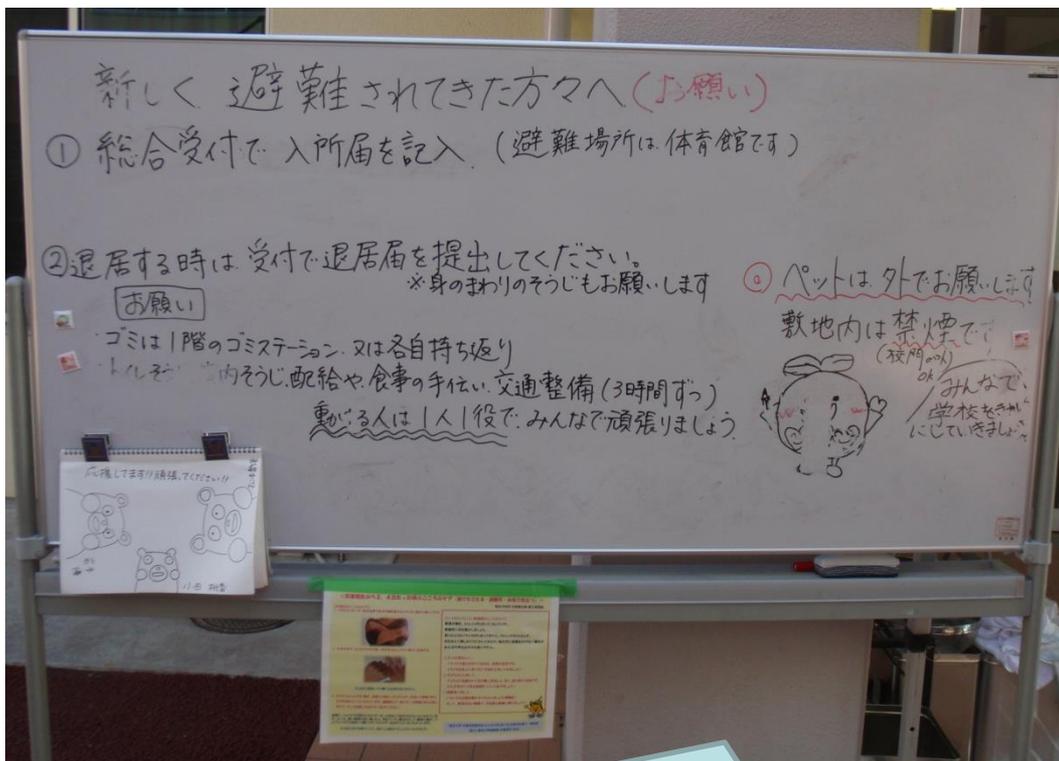
避難所本部の様子です。



避難者用に、赤ちゃんのミルク用のお湯や携帯電話会社が用意した無料充電器が用意されたコーナーです。

活動の様子

○避難者への支援



避難者への各種お知らせを掲示しています。(避難所のルールなど)

活動の様子

○避難者への支援



避難者への各種お知らせを掲示しています。
(エコノミークラス症候群への注意喚起など)

活動の様子

○避難者への支援

屋外に設けられた仮設トイレです。トイレはこまめな清掃が必要でした。



ペットの飼育スペースが居住スペースの外に設けられています。当初はルールが明確でなく混乱がありました。

活動の様子

○避難者への支援



避難所は随時、人の出入りがあり、痴漢や性的暴力など犯罪が起こる可能性もあるため、日中だけでなく、夜間も避難所の見回りが必要でした。

活動の様子

○避難者への支援

学校の校庭でも、車中泊避難者の姿がありました。



車中泊避難者へ支援物資の提供を行いました。

活動の様子

○避難所閉鎖



5月10日の学校再開に向け、5～8日にかけて、学校の避難所の閉鎖を進めていきました。希望する避難者は集約避難所に移りました。

活動の様子

○集約避難所の開設

学校の再開に伴い開設した集約避難所の設営の様子です。
段ボール製の間仕切りを準備しています。(5月7日)



熊本地震の現状からみる課題

【避難所運営の現状】(避難所運営支援に係る派遣職員(4/27~5/18)の報告より)

- ・千葉市の避難所運営委員会や直近要員のような避難所運営の体制はなかった。
- ・市職員、学校職員、地域の連携が上手く行かず運営が混乱した避難所がある一方で、3者の協力体制がよい避難所では、運営がスムーズに行われていた。
- ・体育館の鍵を地域の方が持っていなかったため、最初の地震で多くの方が避難してきた時、すぐに鍵を開けることができず困ったとのこと。
- ・家屋自体は大丈夫だが、家具が転倒して散乱しているため、自宅に帰れず避難所にいるという避難者がいた。
- ・発災後10日間経過し支援物資は大量にあったが、在庫管理がされておらず、何があって何がないのか分からなかった。
- ・トイレ前に陣取っている人がいたり、通路を作らず人を跨いで移動するような配置になっていたため、トイレに行きづらい状況があった。

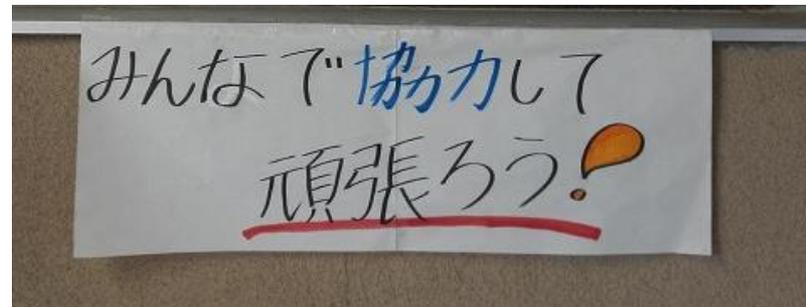
熊本地震の現状からみる課題

- ・トイレ清掃を、毎日行っていなかったので屋外トイレに大量に虫が湧いていた。
- ・物資が個別に包装容器に入っているので、生ごみ以外に食事のたびにゴミが大量に発生した。避難所の近くにゴミ捨て場を設けたので腐敗臭が漂った。
- ・女性で女性用トイレの掃除や、生理用品の処理・供給をする人がいなかった。女性保健師が巡回してきたときにトイレのチェックなどをお願いしていた。
- ・要配慮者(高齢者や障害者等)のために会議室などを使用したかったが、早いもの順で場所取りされてしまった。
- ・聴覚障害者は自身が発している声を知覚できないため、発災直後の避難者が多数いる状況ではトラブルになっていたとのこと。
- ・避難時に注意できなかったようで、ペットが体育館の中に多数いた。アレルギーの人から苦情があり、外へ出した。
- ・車中泊避難者は、深夜にやってきて早朝に出ていくため、夜間、避難者が寝ている時に声掛けはできず、把握が難しかった。

熊本地震の現状からみる課題

⇒ 平常時からの避難所運営の体制づくり

- ・避難所運営委員会の設立
- ・避難所の使い方の検討(体育館のレイアウト、要配慮者用のスペースの確保など)
- ・生活ルールの検討(ペット、清掃、ごみなど)
- ・マニュアルの整備
- ・要配慮者への配慮
- ・女性の参加



ある避難所の張り紙